

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-200	高等学校	国語科	文学国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	文国 015-901	精選 文学国語 改訂版		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって主体的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共存する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、選択科目としての性格や特色を意識するとともに、共通必修科目において育成された能力を基盤として、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の関連する内容を発展させ、育成を目指す資質・能力を確かめながら、主体的に、対話をとおして、深く学ぶことができるよう、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が顕在化しています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能

力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための個の自覚を促すとともに総合的な国語力を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉をととして現実を見つめることで他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動をととして、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、最も基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選、並びに適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという行為は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、表現のための学習と理解のための学習とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。そのため、この教科書では、表現と理解を結びつけた独自の課題（＝学習の場）を設定することで、生徒たちの主体的な学習活動を促し、言語能力を総合的に高められるよう配慮しました。また、内向的な学びに向かいがちな学習のあり方に対する反省をふまえ、自分の意見や考えの積極的な発信や他者との協働的な活動をととして、開かれた個性、広範な教養が育まれることを目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるためには、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、編集にあたっては、主たる教材として、生徒の興味・関心を引き出し、学習意欲を喚起することのできる、豊かな価値を有するものとなるよう心がけました。また、言語の教育という観点を重視し、言葉の特徴や使い方に関する事項の学習にも格段の配慮をしました。いずれも、生徒の、言語文化の担い手としての自覚を喚起し、社会に関わろうとする態度を養うことを意図しています。また、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、一貫した流れの中で「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的に彩る教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的・探究的に取り組むことのできる学習課題の設定についても意を用いました。

2. 対照表

	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第一部	1 随想・評論Ⅰ	小説や詩の言葉にふれることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	11～24
	2 小説Ⅰ	寓意性のある作品の読み比べや書き換えをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）	25～50
	3 詩歌	詩歌の諸作品にふれ、短歌の創作によってより深く作品をd理解する機会をとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	51～68
	文学の創作1 翻案	古典作品の翻案の読解と実作をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	69～76
	4 小説Ⅱ	象徴性に着目して作品を読むことをとおして、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度、並びに、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第三号・第四号）。	77～96
	文学の創作2 戯曲	舞台上で演じられるための作品の言葉にふれることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度、並びに、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した。また、(第二・三号)。	97～116
	5 小説Ⅲ	文学作品に描かれた時代性や言葉のもつ自由なはたらきなどにふれることをとおして、正義と責任男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	117～166
	6 随想・評論Ⅱ	文学作品を多角的に分析する視点の獲得をとおして、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	167～196

第二部	1 随想・評論Ⅰ	文学作品と自己との関わりや体験を述べた文章にふれることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	197～212
	2 小説Ⅰ	人間の内面や社会のあり方について描かれた作品を読むことをとおして、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	213～236
	3 詩歌	詩歌の諸作品にふれ、言葉と感情との関係などを考えることで作品への理解を深める機会をとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	237～254
	文学の創作3 連詩	連詩・連句のもつ意義について学び、文学の共同制作を体験することをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うこと、並びに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度をやしなうことを目指した（第二号・第三号）。	255～266
	4 小説Ⅱ	戦争体験について書かれた作品を読むこと、戦争の記憶の継承について考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度、並びに、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第一号・第四号）。	267～304
	文学の創作4 翻訳	「日本語→外国語」「外国語→日本語」へと翻訳された作品の読解と原典との比較などをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	305～348
	5 小説Ⅲ	文学作品に描かれた時代性や人間の内面などにふれることをとおして、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	349～394
	6 随想・評論Ⅱ	日本の言語と文化についてそれぞれの視点から分析した文章を読むことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	395～414

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-200	高等学校	国語科	文学国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	文国 015-901	精選 文学国語 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 教材選定と作成の基本方針

1 日常生活における言語活動の活発化をはかり、基礎、基本の充実を目指した教材

教材として用いる作品の選定、教材化（課題等の策定）にあたっては、必修教科目である「現代の国語」「言語文化」における学習の成果をふまえ、高校生として望ましい国語の力を身につけ、日常生活における言語活動を活発化できるよう、発達段階にふさわしい基本的なものを選び、教材化しました。また、生徒たちが自らの思考力、判断力、表現力を高め、さまざまな角度から諸問題を取り上げ、人生、社会、言語について思いを深めることができる教材を精選しました。

2 感性豊かに人間の姿や心情を描いた、想像力を刺激する魅力あふれる教材

人間の普遍的な生き方や心情を情緒豊かに表現した作品を教材化することにより、文学の諸相を幅広く取り上げ、さまざまな角度から文学の諸側面にふれることができるよう配慮しました。特に、文学による自己への影響を日常の言語活動に即して把握できるよう、創作活動をとおして理解を深めたり、過去の読書体験を客観的に振り返ったりする学習活動を設けたほか、映像や翻訳、歌詞などとのつながりにも共感と主体性をもってふれられるよう留意しました。

3 読書に親しみ、知識と教養を身につけることのできる教材

幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うため、実社会との関わりの中で読書に親しみ、読書の意義と効用について考え、理解を深める契機となるような作品を選び、教材化を図りました。

4 バランスよく配置された、定評ある教材と現代的話題の教材

教材の選定は、従来から教材化されて定評のある作品を基軸としつつ、特に近代以降の文章では、現代的な話題や視点について考えることのできる作品や文章を教材化して、生徒の興味や関心を喚起できるように配置しました。また、日常生活において適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高められるよう、コンピューターや情報通信ネットワークの活用にも配慮して、総合的な学習、探究的な学習が実現できるよう工夫しています。さらに、文例や模範文を示す場合は、言語活動の具体的な展開を教室での実践に即した形で提示することによって、生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮しました。

(2) 構成と配列の基本方針

文学国語という科目の性格をふまえ、一つ一つの教材の価値を大切にし、言語活動をととした体系的な知識の習得と生徒の主体的・継続的な学習の流れを保証するため、この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

1 全体の構成

全体を二部構成とし、ともに文種で分けた六つの単元と二つの「文学の創作」で構成しました。各部の冒頭と末尾には「随想・評論」の単元を置き、時代・文種を越えた「文学」全体の来し方行く末を俯瞰する単元として位置づけています。

2 「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」

言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化についての生徒の関心を広げ、知識及び技能の着実な理解を図るため、それぞれの教材に「語彙と漢字」を設け、語彙・表現・漢字について取り立てることで、文化の継承、発展、創造を支える言葉の働きや、我が国の言語文化に特徴的な表現についての学習が効果的に行えるよう配慮しました。加えて、読書の意義と効用についての理解が深まることを意図し、ブックガイドを各単元に配置しています。

3 「書くこと」

「書くこと」に関する学習を適切かつ確実に実施できるよう、小説の書き換え、短歌の創作、古典作品の翻案、連詩の共同制作といった表現活動を設定しました。実作の手順や例を示すことで、生徒が自身の知識や体験の中から適切な題材

を設定し、構成の検討、考えの形成、記述、推敲、共有といった過程を意識し、表現したいことが明確になるよう配慮しています。また、作品の形式についての学習を先に行うことで、自分の思いが効果的に伝わるような表現の工夫を自らの実作に活かし、言語文化の担い手としての自覚をもてるように留意しました。

4 「読むこと」

生徒の発達段階に留意しつつ、生徒自らが何らかの言葉を発したくなるような教材を精選し、配列しました。配列は、学習の段階を考慮しつつ、興味関心を喚起し得る変化に富んだものとなるよう配慮し、さらに「文学を読むために」「広がる読書」「ブックガイド」などで、文学への興味や関心が継続的なものとなるように留意しました。

また、「学びを広げる」を適宜配置し、小説と映画の表現を比較する、アンソロジーをつくるなどの活動を設定しました。作品についての理解を深めつつ、多角的な視点を持ち、他のジャンルに目を向ける契機となることを意図しています。

5 学習指導についての配慮

学習指導への配慮から、各教材の下段（二段組みの場合は小口側欄外等）に次の項目を設けました。

①脚注：固有名詞や専門用語、難解な語句などについて、番号をつけ、簡単な説明を加えました。

②脚問：丸番号（①②……）を用い、簡単な問いの形で示しました。

「脚問」は「課題A・B」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく節目と位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることをないように配慮しました。

③語句：語彙習得のため、意味や用法に注意して身につけておきたい語句に＊をつけ、抜き出して示しました。

また、各教材には、次の項目を設けました。

①課題A：文章の内容を理解し、考え、言語活動への手がかりとなる問いを設けました。

②課題B：理解した文章の内容をふまえ、協働的、主体的にその理解をより深めるための学習課題を、問いや作業の示唆の形で盛り込みました。

③語彙と漢字：教材中の語句に着目し、さまざまな形の問いを設定しました。語彙力を高めるとともに常用漢字の効果的な習得を意図したものとなっています。

さらに、各単元には、次の項目を設けました。

①学びを広げる……第1部・第2部それぞれ五つの単元には、単元の目標に対応し、言葉の学びを協働的、主体的に深め、広げる言語活動を設定しました。下記「参考」も含め、探究的な学びへの発展を意識したものとなっています。

②参考……単元の学習で扱ったテーマや内容に関する多様な文章を、適宜「参考」として載録しました。テーマや内容に関する生徒の理解を深めるとともに、実社会へと関心を広げていきます。

③単元の振り返り……各単元末には、生徒が単元での学習を自ら振り返って確認し、次の学習に生かしていけるよう、振り返りの観点を端的に示すようにしました。

④ブックガイド……読書に親しみ、読書活動を広げる手がかりとして、教材と関連のある書籍を選び、紹介しました。

この他、適宜、二次元コードを教科書に付し、リンク先に学習の参考となる情報を掲載しました。

6 用字・用語・表記について

①送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。

②常用漢字以外の漢字については、原則として教材本文ごとの初出に振り仮名をつけました。

③常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞など読みにくいもの、迷いやすいものなどには適宜振り仮名をつけました。

④仮名遣いは、口語体の文章は現代仮名遣いとし、いわゆる文語体の文章は歴史的仮名遣いとししました。

⑤詩歌教材・小説教材など形象性の強い作品の表記は、原則として原典および原作者の求める表記に従いました。また古典教材については、生徒の発達段階を考慮して用字・句読点などに適切な工夫を凝らしました。

⑥外国地名・外来語などのカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

7 写真・挿絵・図版などについて

教材の読解や言語活動の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版などを適宜掲載しました。

8 「資料編」について

学習者が主体的に学びを広げていくために参考となる、以下の資料を収録しました。

「文学を読むために」「広がる読書」「文学史年表」「学校系統図」

2. 対照表

図書の構成・内容（教材名）		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1部	1 随想・評論 Ⅰ	本を読むと路に迷う 朝吹真理子	12～15	5
		言葉という「暴力」と、付き合う 最果タヒ	16～23	
	2 小説 Ⅰ	山月記 中島敦	26～39	7
		少年という名前のメカ 松田青子	40～48	
		〔学びを広げる〕小説を書き換える	49	7
	3 詩歌	地球へのピクニック 谷川俊太郎	52～59	6
		帰途 田村隆一		
		流星 小池昌代		
		木に花咲き——短歌十五首	60～63	8
		〔学びを広げる〕短歌を創作する 〔参考〕麦わら帽子のへこみ 穂村弘	64～67	
	文学の創作1 翻案	ありとぎりぎりす 佐野洋子 セミとアリ イソップ	70～72	12
		古典作品を翻案する 姨捨（大和物語）	73～75	
	4 小説 Ⅱ	鞆 安部公房	78～84	7
		神様 川上弘美	85～94	
		〔学びを広げる〕象徴について考える	95	
	文学の創作2	戯曲の中の「対話」 対談 井上ひさし／平田オリザ	98～102	12
		物語を戯曲に書き換える 〔参考〕戯曲 書く女（抄） 永井愛	103～115	

	5 小説Ⅲ	こころ 夏目漱石	◆言葉の特徴や使い方 エ ◆我が国の言語文化 ア ●読むこと イ・ウ ☆言語活動例 エ	118~153	9
		蝇 横光利一		154~163	
		[学びを広げる] 小説の表現／映画の表現 について考える		164~165	
	6 随想・評論Ⅱ	文学のふるさと 坂口安吾	◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆我が国の言語文化 イ ●読むこと ア・キ ☆言語活動例 イ	168~176	7
		お砂糖とスパイスと爆発的な何か 北村紗衣		177~185	
		小説はどう読めばいいのか？ ——太宰治『斜陽』の語り口 阿部公彦		186~194	
		[学びを広げる] 批評を書く		195	
第2部	1 随想・評論Ⅰ	詩はいつでも近いところにある 蜂飼耳	◆言葉の特徴や使い方 ア ◆我が国の言語文化 イ ●読むこと ア・カ ☆言語活動例 ア	198~201	6
		想像し物語ること 大江健三郎		202~211	
	2 小説Ⅰ	待つ 太宰治	◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆我が国の言語文化 イ ●読むこと イ・エ ☆言語活動例 ア	214~219	7
		ベル・エポック 絲山秋子		220~234	
		[学びを広げる] 書評を書く		235	
	三 詩歌	のちのおもひに 立原道造	◆言葉の特徴や使い方 エ ◆我が国の言語文化 ア ●読むこと ウ・キ ☆言語活動例 オ	238~248	7
		パンの話 吉原幸子			
		永訣の朝 宮沢賢治		249~252	
		渡り鳥——俳句十五句			
		[学びを広げる] 詩・短歌・俳句のアンソロジーをつくる		253	
	文学の創作3 連詩	連詩の愉しみ 大岡信	◆言葉の特徴や使い方 エ ◆我が国の言語文化 ア ●書くこと エ ☆言語活動例 エ	256~260	12
		[学びを広げる] 連詩をつくる [参考] ヤングの連句 ——半歌仙『赤城おろし』の巻 宇咲冬男		261~265	

	5 小説Ⅱ	夏の花 原民喜	◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆我が国の言語文化 イ ●読むこと オ・キ ☆言語活動例 イ	268~286	7
		靴の話 大岡昇平		287~296	
		〔学びを広げる〕戦争の記憶 〔参考〕死者の声を運ぶ小舟 小川洋子		297~303	
	文学の創作4	翻訳の言葉 『雪国』の謎——夜の底とは何か 山本史郎	◆言葉の特徴や使い方 イ ◆我が国の言語文化 イ ●読むこと ウ・エ ☆言語活動例 カ	306~309	7
		翻訳作品を読み比べる 魯迅「故郷」		310~311	
		外国語の小説を翻訳する ルイスキャロル「不思議の国のアリス」		312~313	
	七 小説Ⅲ	檸檬 梶井基次郎	◆言葉の特徴や使い方 エ ◆我が国の言語文化 ア ●読むこと ウ・オ ☆言語活動例 イ	316~326	7
		舞姫 森鷗外		327~359	
		〔学びを広げる〕文体について考える 〔参考〕文体の持つ力 安藤宏 〔参考〕小説文体の変遷		360~367	
	6 随想・評論Ⅱ	陰翳礼讃 谷崎潤一郎	◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆我が国の言語文化 ア ●読むこと ア・カ ☆言語活動例 カ	370~376	7
		無常ということ 小林秀雄		377~382	
		文学の仕事 加藤周一		383~390	
		〔学びを広げる〕短い論文を書く		391	
	第1部・第2部		◆我が国の言語文化 イ	24,50,68 76,96,116 166,196, 236,254, 266,304 314,368, 392	適宜
資料編	文学を読むために	語り手／象徴と寓話／筋（プロット）／ 台詞と科白／回想と手記／詩と詞／描写／ 翻訳の創造性／韻律と文体	◆我が国の言語文化 ア	394~402	適宜
	広がる読書	エッセイ／ミステリー／SF小説／ 翻訳小説／歴史と文学	◆我が国の言語文化 イ	403~407	適宜
		文学史年表	◆我が国の言語文化 ア・イ	408~415	適宜